



国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構



Arctic Challenge
for Sustainability II

ArCS II イベントシリーズ

ようこそ、**北極**へ！

とける永久凍土 現地では何が起きているのか？ - サイエンストーク -

内容：シベリアの永久凍土の融解によって、環境や生態系、人々の生活がどのように影響を受けているのかをみんなで考えます。

講師：飯島 慈裕（東京都立大学）

会場：談話室サザンクロス（国立極地研究所 南極・北極科学館隣り）

対象：興味のある方はどなたでも（高校生以上を推奨）

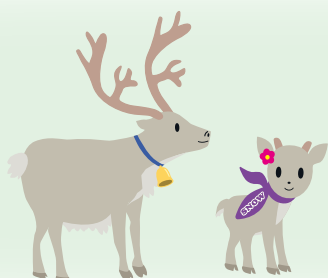
定員：先着 30 名（事前申し込み制）

2024 年

12/7 (土)

14:00 ~ 15:30

参加
無料



申し込み方法

申し込みフォームよりお申込みください。
右の QR コードを読み込んでください。



シベリアには、広大な森林（タイガ）と地下の凍った大地（永久凍土）が広がっています。これまでそれらは絶妙なバランスで保たれてきたのですが、2000年代からの継続的な現地調査で、永久凍土が地表付近から融ける現象が現れてきました。それは、地形や生態系、水の流れなどを変えて、そこに住む人々の生活にも大きな影響を与え始めています。永久凍土が融けるとどうなるのか？現地で体験した不思議な現象の数々をお見せしながら、一緒に考えていきましょう。



▲ 凍土がとけて、地下の氷がむき出しに

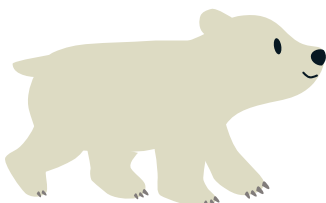


▲凍土がとけた後のもこもこ地形、昔は空港でした

講師からのメッセージ



いいじま よしひろ
飯島 慈裕
(東京都立大学)



私の専門は自然地理学（特に気候学）です。世界の様々な地域に特有の気候に応じて、自然と人々はどのように関わっているのか、現在の気候変化はそれらの長期的な関係をどう変えているのかについて研究しています。中でも主な研究対象が、シベリアの永久凍土です。

私が初めてシベリアに出かけたのは20年以上前の2003年のこと。その時は、意外と秋には雨がよく降るな、と感じていたのですが、調べてみるとそのような気候に変わってきたのは最近のことでした。そこから続けて調査に通っているうちに、永久凍土が表層から融け始めて地形が陥没したり、新しく池ができたりなど、目に見える変化がいたるところに見えてきました。

気候の変化で永久凍土の環境が大きく変わる有様をどうしたら多くの人に知ってもらえるか、それが研究のモチベーションになっています。